

全教広島第69回中央委員会 給特法の再改定を！ ねばりづよい実践・運動で共感を広げ、道を切りひらこう！



全会一致で
議案を採択



開会のあいさつを
述べる船石委員長

1月31日に全教広島第69回中央委員会を広島ロードビル(オンライン併用)で開催し、42名が参加しました。多忙を極める学校現場ですが、そんな中でも教育・学校現場の困難に黙っていないとりくみや、つながりをつくり仲間を広げる運動、組合・共済の存在を知らせる地道なとりくみなどが多くの中央委員から語られました。

開会挨拶で、船石委員長は次のように述べました。「今、世界でも国内でも自国を優先した考えや個人の利益を優先する言動が目立ちます。その表れとして戦争があり、他国への力による干渉があり、軍事を優先する予算編成があります。県内では、公立高校の統廃合計画が明るみに出ましたが、これも目の前の経済を優先する政策に他なりません。公立高校は、そこに人が住む以上、なければならぬものであって、エリート校があればよいわけではありません。県内の教育がより民主的なものになるよう、そして県民全体のものになるよう全教広島はがんばっています。」

執行部からは★給特法の再改定を求める請願署名を、同法の問題点の学習とあわせて広げる運動★春闘期を中心とした労働者全体の賃金・労働条件改善を求める運動などが提起され、全会一致で採択されました。

《中央委員の発言より》

■政令市交流集會に今回初めて参加した。各政令市から書記長や組合役員が集って、情報交換。給特法の改定に基づいた義務特手当の減額と担任加算の話題が大きかった。広島では、通常学級の担任のみに3000円加算されており、しかも、特別支援学校や学級の担任は、給料の調整額が支給されていることを理由に対象外になっている。しかし、特別支援学校・学級の担任にも支給される自治体や義務特手当を減額しても、同じ額を全員に支給する自治体もあった。組合と交渉を重ね、独自の対応をしている自治体もあり、今後の運動への学びになった。



【広島市教組(全教)】

■10月4日、県市共同学習会を開催。前半は西九州大学の吉村先生の講演。子どもたちの心の安心感を満たすにすることが、教師が笑顔で元気にいることの大切さを楽しんで教えていただいた。後半は下園先生によるハンドマッサージ。心と身体を大切にすることを学んだ。スイーツを食べながらのおしゃべりも楽しく元気の出る会となった。12月13日、市女性部のランチツアーを開催。ムーミンの料理と楽しい会話などをオープンチャットを利用し交流した。今後も女性が笑顔で働けるよう女性部は声をあげていきたい。



【女性部】

あらくさ

2月8日投票の衆議院選挙では、政権与党だけに「右へ右へ」の流れに迎合する政党を含めると圧倒的多数が自民政治へのみ込まれる状況になり、護憲勢力が大きく後退する結果となりました。みなさんはこの結果をどう受け止めたでしょうか。

先日、広島市教組(全教)の中央委員会で選挙について2人の青年が発言しました。一人は「戦争する政治がさらにすすみそうで怖い。青年との対話を広げたい」と。また一人は「選挙前に選挙に行つて政治を変えよう」と同僚にラインすると「教員が選挙にかかわるなんてルール違反ではないのか」と返信が返ってきたと報告。物言わぬ(言えぬ)教員が増えてきているのでしょうか。今回の選挙を受けて政権幹部からは、「憲法改正のため国民投票を急ぐべきだ」との発言があります。「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンを高く掲げ、平和憲法のもとで築かれてきた「戦争しない国」を「戦争する国」へ転換することを許さないため、踏ん張り時です。一人ひとりの対話力が問われています。(K)

「おかしい」ことは「おかしい」と声をあげよう！

《中央委員の発言より 続き》

■秋の中央委員会で、養護教諭の全校配置、複数配置基準が100人切り下がることが、文科省の概算要求に上がったことを報告しました。私たちの運動の成果だと喜びましたが、12月の閣議決定で「全校配置は撤廃、複数配置基準の引き下げは50人」残念な結果となりました。この複数配置基準が2026年度から適用されるのか、今後注視していく必要があります。



今、全教養護教員部が養護教諭の組合員拡大のためのリーフレットを作成しています。春には完成し、配付する予定です。ぜひ分会で声をかけていただくと、きっかけにしてほしいと思っています。

【養護教員部】

■昨年の12月8日、中国新聞より2033年度までに都市部を対象に県立高校22校を9校に再編統合する方向が報道されビックリ。その一つが、高陽・高陽東・安西を一つにする案。昨年の5月11日現在で、高陽・高陽東は各学年6クラス。安西は149名の生徒がいる。この素案に対し



て、地元自治体から懸念が表明されたり、同窓会なども存続を求める要望書を提出したりしている。「再編統合計画の撤回を！」この一点で一致し、運動の輪を広げよう。

【高校連絡会】

■「政治のことはよくわからない」という声はよく聞かれますが、トランプ米大統領の無法は誰もが批判する。アメリカ第一主義を掲げ、そのためなら他国の大統領を拉致するし国連憲章も国際法もいらぬと言います。関税率の爆上げを脅しに使い貢物を求める。きっとトランプを選んだ人の中にも後悔している人がいるのではないだろうか。衆議院選挙が始まった。多くの政党が消費税減税を掲げているが、よく見ると少しづつちがっている。よく見極め、後で投票したことに後悔しないよう、平和な世界の構築につながる政策を掲げる政党に投票したい。



【広島市教組（全教）】

■福山市教委は12月中旬のオンライン研修で、中2を担当する数学科の先生に、市教委が指定した冬休みの宿題と、それを検証する授業をすることを指示し、現場を混乱させました。これは



教育への不当な介入と言わざるを得ません。全教福山は質問状を送って抗議しました。これに対して市教委は全教福山との話し合いの中で、「現場を混乱させるつもりはなく、強制でもなく、お願いであった。」と言い訳をし、「全国学力テスト」で福山市の成績が悪いことへの議会を意識した対応であることも認めました。私たちは、現場の教員は目の前の生徒に対してそれぞれが課題をもって真摯に取り組んでいることを伝え、今後は施策を下ろすときは、現場と校長に「強制だと誤解させない」ように配慮をし、スクラップアンドビルドも考えてからにしてほしいと要求しました。

【福山支部】

■佐伯支部定期大会で「教研活動を活発にしたい。」という要望があり、月一回の学習会を計画することを決定した。今年度は6回の会を持ち、学習や職場の交流をした。この中で人手不足が教職員の多忙化につながっていることが多く出された。この事を今年度の市教委交渉で話し、改善に向けていきたい。

【佐伯支部】



全教自動車保険は唯一無二の制度

今回の中央委員会の学習は、東京海上日動広島支店の赤木克之次長に「全教自動車保険の優位性・安全運転のために」と題して報告をしていただきました。報告の中では、「被害者救済と加入者保護の立場」「公正公平な事故解決」等、保険業界人から見た全教自動車保険の優位性を語っていただきました。また、安全運転にかかわっては、ドライブレコーダーを使った安全運転のポイントを説明していただきました。最後に「全教自動車保険ほど加入者に寄り添う手厚い保険はみたことがない。唯一無二の保険だ」と指摘し、「すべての先生方に加入してほしい」と強調されました。



東京海上日動
広島支店の赤木次長

全教共済大抽選会

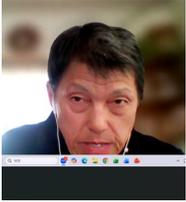
中央委員会を中断して行われた恒例の抽選会では、この間の加入者と紹介者を対象にした抽選会を実施。お米（5キロ）やビール、図書カード等の景品に会場から歓声があがりました。また、2月からの加入キャンペーンの内容も公表されました（4面）。



同僚と、市民と、対話し、学び、つながる

■略称「教育上特配※」という職種で3年目を迎え、この職種の必要性を強く感じている。教室に入れないため別室でのオンライン授業したり、アニメ・ゲームなどの話や絵を描くなど共にする。そうした柔軟な生活が、小学校での不登校改善にもなっている。また、授業を覗くと、そこにも配慮が必要な生徒がおり、声かけをする。結局、生徒だけでなく先生のサポートにもなっている。増員が望ま

■全教共済の総合共済で、個別の名前がついた申請忘れのお手紙を、福山支部は分担して年末に42校へ持って行きました。私は二校に行きました。職員室に勇気を持って入って行き、5校で加入者ご本人と会うことができました。どの職場も気軽に配布をお願いし、快く了解してもらえました。9月には総合共済加入者に教育署名のお願いのお手紙を送り、5名から17筆の署名の返信がありました。総合共済加入者は全県で1300名で



※教育上特別の配慮を必要とする児童又は生徒に対する特別な指導又は支援(非常勤)

す。コンタクトをとり、情報を入れ、組合への関心を持ってもらい、加入に繋げたいと考えます。

【福山支部】

■3回目を迎えた「教育のつどい」を2月1日に開催します。テーマは『子どもたちの生きづらさに寄り添うために』私たちにできることとし、全教海田支部、子育てサークル、全障研芸南サークルが実行委員会をつくり、教員だけでなく、親、保育者、支援者、市民が集まり、子どもと教育について話し合います。講師も参加しての実行委員会でもらったり、呉市教委の後援も取りました。今後、地域の教育を語る場として定着させていきたい。



【海田支部・執行委員】

■数年ぶりに青年部主催の勉強会を開催。活動人数不足や講師探しに苦労したが、多くを学んだ。様々な特性をもつ児童と温かい関係を作る大先輩の奮闘記や参加者の意見交流を通じ、自分が大切にしたい価値が明確になった。実りある

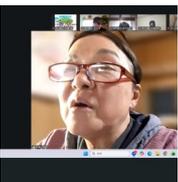


活動や、青年部の繋がりが続くように、今後も青年部に携わって、仲間を増やしたい。

【青年部】

■障教部では学習会を継続してきました。今年度は「わいわいトークカフェ」と名前を付けて、いつ来ても帰ってもよく、お茶とお菓子を用意して気軽に参加できるようにと取り組みました。学校、学級の様子や悩みを語り合い、聞き合い、討議します。制度の確認をすることもあります。似たような事例を経験した先生もいるので「〇〇してみたら？」とアイデアが提案されることも。「問題行動」、「困った子」と言われていても「子どもの願いは何なのか」どうしてそのような行動をするのか、子どもの願いに寄り添い考えていきます。子どもの願いをキャッチするアンテナの精度を高め合える場になっていると思います。頼れるカフェになるように工夫しながら続けていきたいと思えます。また、来られた方を組合につなげていけるようにしていきたいと思えます。

【障害児教育部】



2月10日、佐伯支部が学習会&拡大執行委員会を佐伯支部の組合事務所で開催し、5人の参加で学び合いました。

学習会では、小学校特別支援学級担任のH先生が「クッキングをして生活にいかそう」というテーマで実践報告。5名の子ども達と生活単元学習として1学期にとりくんだ“おにぎりづくりととうもろこしのレンチン”の実践を中心に報告を受けて議論しました。H先生は、準備から実習に至るまでの4時間の授業の内容やその時々の子どもたちの様子・反応、また、授業をとおしての子どもたちの変化や成長を見取りなどをていねいに報告しました。参加者からは以下の感想が寄せられました。

■「経験を交流し合ったり、活動の中で声かけをしていったりすることで、子ども達の言葉が増え、行動を理解していく力が伸びている。これからも、個性の強い5名の子ども達といろいろな活動をしながら、ちょっとずつ成長している姿を保護者と共有できるといい。」

■「2学期はスイートポテト、3学期はカップケーキと、一年を通して子ども達が興味をもつ食べる活動にとりくんだことで、生活にいきる力を育てることができると思った。」

佐伯支部 学習会& 拡大執行委員会

生活にいきる学びを



実践報告をもとに意見をかわす参加者

教育のつといをくれ



子どもも大人も生活の中にワクワクを

2月1日(日)『教育のつといをくれ』がビューポイントくいで行われ、44名が参加しました。

3回目となる『つとい』のテーマは、『子どもたちの生きづらさに寄り添うために私たちにできること』でした。講師に、全教の共同研究者であり、京都教育センター代表、元立命館大学教授の山岡雅博先生をお招きして3時間わたる学びと交流を行いました。

昨年9月末の第一回から、山岡先生には実行委員会に4回ともご参加いただきました。参加者が小テーマを議論しながら交流し、講演を自分事として考えてほしいとの思



会場いっぱい参加者(右上)と講師の山岡雅博先生

いから、4人一組のグループを作り、そこに実行委員がリーダーとして入ることや、そのために事前に講演のポイントを山岡先生から学ぶなどの準備をして臨みました。

実行委員会は、これまで同様、全教海田支部、子育てサークル、全障研芸南サークルの3団体。中国新聞呉支社には事前の案内記事の掲載を依頼し、呉市教育委員会の後援を取り、広く参加者を募りました。参加者は、3団体の口コミで広がり、初参加が全体の3割、7割が2〜3回目という構成でした。呉地域において、子どもを真ん中にした教育の在り方を教員・保育士・親・支援者・市民がともに考え話し合う場として定着してきています。

「つとい」は、講演の合間に3回のグループトークを入れて話し合い、全体でシェアすること、講演を深める学びとなりました。山岡先生は

①「子どもたちの現状分

広島市教組(全教)第72回中央委員会



全会一致で議案を採択

分断のりこえ、みんなが幸せになる世界へ

2月14日、広島ロードビル(オンライン併用)で、広島市教組(全教)第72回中央委員会が開催されました。執行部、中央委員など合わせて39名が参加。春闘期、年度がわりの時期の仲間を増やす運動などについての執行部提案を受けて討論が交わされました。

討論では、分会、行政区、専門部などから9名の発言がありました。職場の困りごとの解決、集まり、学び、全教の運動に確信をもつ、そして仲間を広げるなど、地道なとりくみが報告されました。また、沖縄で進む軍事拠点化の現地レポート、長年続けている地域での教育懇

談会のとりくみなども報告され、執行部の提案を豊かに補強しました。

閉会のあいさつで藤中執行委員長は、「新自由主義、自己責任論が生活の中に持ち込まれ、『〇〇ファースト』がもてはやされるが、敵を作って自分たちだけが幸せになる世界なんてありえない。分断ではなく、みんなが幸せになる世の中をめざそうと運動するのが組合。目の前のことに追われて本当の願いに気づいていない同僚の、困り事や願いに寄り添い、対話し、分断から包摂へと向かう道へ、みんなが進もう」と力強く語り、会を締めくくりました。

析」、②「子どもたちの生きづらさの背景をどう考えるか」、③「ワクワクできる生活を過ごせるために私たちにできることは何か」の小テーマを設けてグループトークを促しました。その中では、新自由主義のゆがみ、管理教育、「端末ありき」のICT教育などの問題や、子どもたちの「自己肯定感」を育てることの大切さ、そのためにも子どもだけでなく大人もワクワクできる生活、地域を取り戻すことの大切さ、などが様々に語られました。大変元気が出る「つとい」となりました。

春一番キャンペーン はじまりました!

加入者・紹介者に
お菓子詰め合わせ
プレゼント!



「全教広島」組合加入者と紹介者!「全教共済」「全教自動車保険」の加入者と紹介者の方にお菓子詰め合わせ(何が届くかはヒ・ミ・ツツ)をプレゼントします。

2026年2月1日~6月30日まで!

みんなでもらっちゃお!

さ・さ・せ・らに!!

抽選で期間中の加入者・紹介者 30名の方に

カーフ観戦ツアー(7月予定)にご招待!!

